

個別最適な学びに関する実証研究事業《イメージ》

目指す 全ての児童生徒の主体的な学びの実現

成果目標 主体的な学びに向かっていない児童生徒の割合 [H31] 小:8% 中:12% → [R5] 0%に近づける

現状

- 全体指導を基盤とするカリキュラムでは主体的に学べていない児童生徒が **約1割** 存在
- 児童生徒一人一人の**個別最適な学びの環境が未整備**

成果と課題

- 個別最適な学びに必要な観点(提案)は年度内に整理予定
- **具体的な実践事例や教育効果のエビデンスがない**ために、学校現場の教員は導入に不安

対策の方向性

- 個別最適な学びに必要な観点(提案)について実証研究する
[目的①] **実践事例の蓄積**
[目的②] **教育効果の検証**
- 実証成果を県内に広く普及

実証研究概要

児童生徒一人一人の学習進度や能力, 関心等に応じて, それぞれに最適な学びの環境を提供することで, 児童生徒が, 基盤的な学力の習得も含め, 主体的に学び続けることができている状態を目指す

	A地域	B地域	C地域
研究内容	<p>【例: Edtechの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 個々の状況の把握・共有化 ◆ 学習ログの蓄積・活用 ◆ 学習成果物等の蓄積・活用 	<p>【例: 多様性を尊重した自立・協働学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ イエナプランを参考とした自立と協働 ◆ 学習到達度や学習課題等に応じた異年齢での自立・協働学習 	<p>【例: 外部の活用による探究型学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ STEAMを取り入れた概念の獲得に迫るカリキュラム作成・実践 ◆ 外部機関との協働・積極活用
効果検証	<p>【コンピテンシー評価】 AIを活用したコンピテンシーの可視化・定量化</p> <p>【基礎学力の評価】 既存の学力テストを活用した基礎学力の定着状況調査</p>		<p>児童生徒との共有 《メタ認知の促進》</p>

多様な学びの選択肢 → 学ぶ楽しさ・できる喜び → 自己肯定感の向上・主体的に学び続ける人材へ 《学びの好循環》

実証研究事例イメージ① Edtechの活用

テーマ

AIを活用した個々の児童生徒の状況に応じた学習支援の有効性の検証

目的

AIの活用による学習の個別最適化／学習成果(到達度)等の見える化によるメタ認知の促進

区分	内容(イメージ)	ねらい・効果
学びの進め方	各教科(特に算数・数学)におけるAI型教材の活用 (Qubena, やるkey, すららネット等)	・学習ログの蓄積・活用による学習内容及び指導・支援の個別最適化
	各教科における授業支援ツール(ロイノート等)や スライド教材(パワポ等で作成した教材)の活用	・思考の見える化, 意見共有, ポートフォリオの振り返りによるメタ認知促進 ・教材や課題のデジタル化・共有化による授業準備時間, 板書時間, 提出採点評価時間等の削減(→ 児童生徒と向き合う時間の確保)
学びの評価	授業ごとに学習到達目標の共有及び自己評価・相互評価の実施・蓄積, ポートフォリオの作成・蓄積	・到達目標, 到達度及び学習成果等の見える化によるメタ認知の促進
校務支援	情報共有ツール等の活用による業務の効率化 校務系データと学習系データの集約・共有・可視化 (個々の児童生徒の状況把握, いいところ見つけ等)	・業務の効率化による児童生徒と向き合う時間の確保 ・個々の状況を全教職員が把握することによる, 個に応じた組織的な支援

実証研究事例イメージ② 多様性を尊重した自立学習・協働活動

テーマ

イエナプラン教育の理念である自律と共生を参考とした学びの場づくり

目的

異年齢集団での自立学習と協働活動による学びの自立化・個別最適化

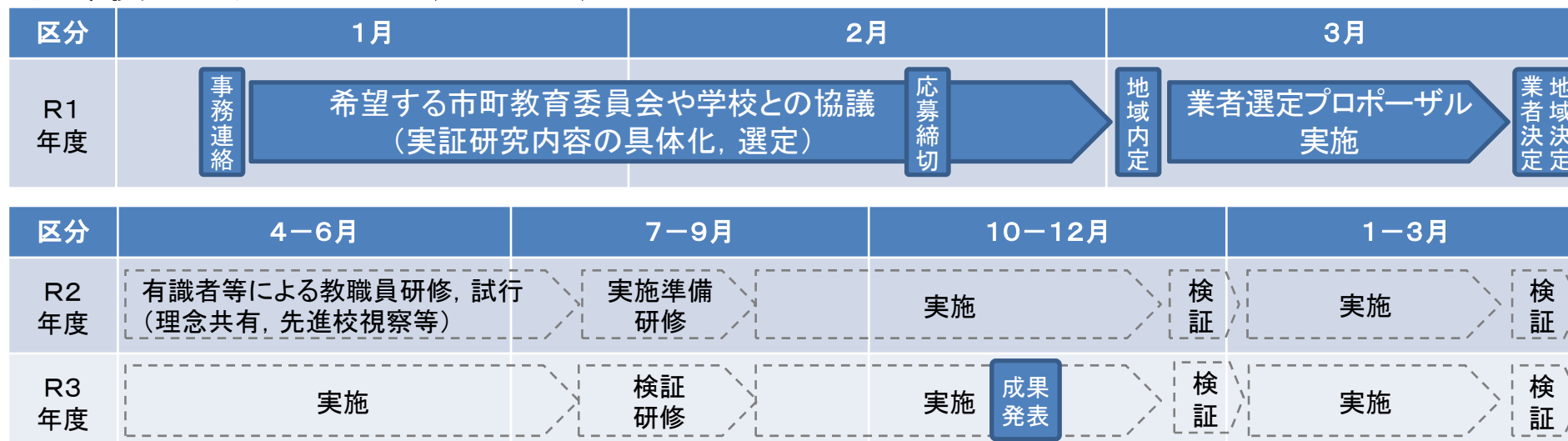
区分	内容(イメージ)	ねらい・効果
学びの進め方	自立学習(ブロックアワー)の実施 各教科におけるAI型教材の活用(すららネット等)	自立的に学習を進める力の育成, 学習サイクルの定着 ～目標達成に向けて, 自分自身が学習内容や学習方法を選択し, 主体的に学習を進める
学びの集団づくり	異年齢のグループ編成による教育活動の実施 ※期間や活動内容を決めて全ての教育活動で実施	実際の社会に近い年少・年中・年長という異なる立場を経験することによる 社会性を涵養
学びの内容	異年齢での協働的な探究学習(ワールドオリエン テーション)の実施	協働的に探究学習を進める力の育成, 「学習サイクル」の定着 ～現実社会の課題について, 自ら問いを立て, 自己の役割を認識しながら, 解決に向けて協働して学習を進める

実証研究事例イメージ③ 外部機関の活用による探究型授業

テーマ	外部機関と連携した高度な探究学習を通じた自立的な学習者の育成	
目的	各教科等での探究的な学びの実践による学びの自立化・個別最適化	
区分	内容(イメージ)	ねらい・効果
学びの内容 進め方	【総合的な学習の時間】 ・外部機関と連携したPBL型授業の実践(STEAM等) ～ア+やデザインの要素を取り入れた発表会の企画運営 ・ICT等を活用した理論と実践を組み合わせた キャリア教育(InspireHigh, ENAGEED等) 【各教科】 ・各教科でPBL型授業の実践(STEAM等) ・教科等横断型授業の実践	現実社会における探究テーマに沿って、自ら問いを立て、自立的・協働的に課題を解決する「学習サイクル」の定着、概念的な知識の獲得、自立的な学習者の育成 ～児童生徒に学びを委ね、思考・判断・表現する場面を意図的に設定
学びの評価	ループブックを用いた学習到達目標の明確化, 共有化及び自己評価・相互評価の実施, 振り返り	児童生徒の学習状況・到達度の把握とフィードバックによるメタ認知の促進

※ 上記はあくまで一例であり、今後、民間事業者の提案や実証市町・実証校との協議を踏まえて、実証内容の詳細を具体化する予定。

◆ 今後のスケジュール (イメージ)



※ R4年度以降は、各市町教育委員会、実証研究校で自走（県教育委員会は必要に応じて側面支援）